総　務　財　政　委　員　会　記　録（Ｎｏ．１２）

１　日　　時　　令和５年８月２３日（水）
　　午前１０時００分　開会
　　午後　０時１３分　閉会

２　場　　所　　第６委員会室

３　出席委員（１０人）

委員長	佐藤栄作	副委員長	三宅まゆみ
委員	村上幸一	委員	戸町武弘
委員	成重正丈	委員	岡本義之
委員	大石正信	委員	篠原研治
委員	井上純子	委員	村上さとこ

４　欠席委員（０人）

５　出席説明員

市政変革推進室長	白石慎一	市政変革推進室次長	徳永篤司
市政変革推進担当課長	篠原まり香	市政変革推進担当課長	鍋藤博一
公共施設マネジメント担当課長	宮野謙剛	企画調整局長	柏井宏之
企画政策部長	森川洋一	企画課長	一徳　仁
企画担当課長	大西理恵		外　関係職員

６　事務局職員

委員会担当係長	松永知子	委員係長	伊藤大志

７　付議事件及び会議結果

番号	付　　議　　事　　件	会　議　結　果
1	行財政改革のさらなる推進について	市政変革推進室から別添資料のとおり説明を受けた。
2	人口増加対策について	企画調整局から別添資料のとおり説明を受けた。
3	行政視察について	委員会での意見を踏まえて、正副委員長で協議し、視察先の優先順位を決定することとした。

８　会議の経過

○委員長（佐藤栄作君）開会します。

本日は、所管事務の調査を行います。

まず、行財政改革のさらなる推進についてを議題とします。

本日は、市政変革の現在の取組状況について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　私からは、市政変革の現在の取組状況についてのうち、まず、第１回北九州市政変革推進会議について御説明いたします。

タブレットの２ページを御覧ください。

まず、１、開催の目的についてでございます。

市政変革を推進するに当たり、広く有識者から意見を聴取することにより、客観的、専門的立場からの視点を反映するとともに、市政変革の取組の透明性の確保を図ります。第１回は、市政変革の基本方針案など市政変革に関する意見聴取を行いました。

次に、２、日時、場所についてです。

第１回は、令和５年８月３日の木曜日10時から約２時間程度、本庁舎３階大集会室で開催いたしました。

出席者につきましては、構成員10名のうち、井上構成員ら８名に御出席いただきました。なお、予定が合わず、御欠席となりました津田構成員、辻構成員につきましては、事前に内容を説明の上、御意見を頂戴し、会議の場で御紹介させていただきました。

５、会議での主な意見につきましては、タブレットの３ページから７ページに会議録といたしまして発言要旨を添付しておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

最後に、第２回は10月頃の開催予定としております。

続きまして、北九州市政変革の基本方針案について御説明いたします。

以前、公表させていただいております北九州市政変革の基本方針（たたき台）から追記したところなどを中心に御説明させていただきます。

タブレットの９ページを御覧ください。

第１、市政変革を必要とする北九州市の課題でございます。

まず１点目が、複合的・構造的な課題等です。

ア、少子高齢化と人口減少については、北九州市では市民の約３人に１人が高齢者となっており、政令市の中で最も高齢化が進んでいる状況などについて。

タブレット10ページを御覧ください。

イ、経済成長の停滞では、令和元年度の北九州市の市内総生産は３兆8,000億円で、非公表の政令市を除いて16政令市中12位で、福岡市の約半分の額、増加率も政令市平均の７割程度の伸び率になっている状況について。

タブレットの11ページを御覧ください。

ウ、公共施設の老朽化対策では、市民１人当たりの公共施設の延べ床面積は政令市平均の1.5倍で、その多くが昭和50年代頃までに整備されているため、老朽化対策として大規模改修や更新が必要な状況について、を追記しております。

タブレットの12ページを御覧ください。

エ、課題を解決するために取り組むべき政策課題について、北九州市が有するポテンシャルを最大限引き出し、都市の成長につなげるため、令和５年度予算では、人、場、企業という３つのポテンシャルに着目した成長への再起動予算の編成という点で追記しております。

続きまして、２点目の未来への柔軟かつ機動的な投資が困難な財政状況、次のページの３点目、市役所組織・経営のアップデートも同様に追記しております。

タブレットの14ページ、15ページを御覧ください。

第２、市政変革で目指す方向性でございます。

上から６行目にありますとおり、具体的な数値目標や行動目標については、令和５年度中に策定いたします北九州市政変革推進プランに明記することとしております。

なお、３つの方向性である、新たなビジョンにベクトルを合わせた市政運営ができている、財政状況を改善した上で、経済社会構造の変化に対応した柔軟で機動的な意思決定ができる、各事業所管部署が自主的に目標を設定し、自律的な経営判断を行い、事業実施ができるということはどういうことなのかというような観点を、市政変革推進会議からの御意見を踏まえ、追記しております。

タブレット16ページ、17ページを御覧ください。

第３、市政変革に取り組む際の主な視点でございます。

(1)から(6)の視点にそれぞれ課題背景と留意点を、市政変革推進会議の御意見も踏まえ

まして追記しております。

タブレット18ページ、19ページ、20ページを御覧ください。

第４、市政変革を進める際の３つのステップでございます。

ステップ１、予算事務事業の棚卸し、ステップ２、主要政策の経営分析、ステップ３、組織体制（ガバナンスメカニズム）の導入について、こちらも市政変革推進会議の御意見を踏まえまして、実施方法や主な点検項目、事業クラスターの考え方などを追記しております。

タブレットの21ページを御覧ください。

第５、市政変革の実行体制でございます。

市役所庁内に設置いたします北九州市政変革実行本部、有識者で構成いたします北九州市政変革推進会議、また、庁内の新たな組織といたしまして北九州市政変革推進室の設置について追記しております。

第６、市民との公開対話でございます。

市政変革の取組を進めるに当たり、検討の過程を市民に公開し、北九州市が抱える課題を十分認識していただき、危機感を共有しつつ、市民の議論を喚起しながら進めていくこと等を、市政変革推進会議の御意見を踏まえ、追記しております。

タブレットの22ページを御覧ください。

第７、当面のスケジュールは、最新のスケジュールに更新しております。

第８、北九州市政変革推進プランについてでございます。

北九州市政変革推進プランを令和５年度中に策定することを追記しております。

タブレットの23ページは、参考といたしまして、市政変革推進会議の構成員の名簿を添付しております。

私からは以上となります。

○委員長（佐藤栄作君）ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。

なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質問、意見はありませんか。大石委員。

○委員（大石正信君）おはようございます。

行財政改革について、第１回目の市政変革推進会議が８月３日に行われて、私も傍聴させていただきました。感じたのは、第１回目ということもありますけども、結構厳しい意見も出されたんじゃないかと。ここにありますように、遠藤構成員は、361億円の削減は民間委託と何を比較して算出したのかとか、また、井上構成員は、437億円削減したって言うけども、削減だけでいいのか、指定管理者なんかは結構削減してきているというふうな厳しい意見も出されたと思うんですよね。

平成26年からこれまで行財政改革を行ってきて、961項目、437億円を削減したって言われていますけども、遠藤構成員が言われたように、これはどういう根拠で示されたのか。例えば学校給食でも削減されたと言いますけども、直営の調理員の給料、退職金と、現在の民間の委託料との比較で単純に出されていると思うんだけど、実際には小学校から中学校に親子方式で搬送していますよね。その中には、そういうものは入っていないんですよね。水道、電気、ガス、調理器具、そういうのも委託でありながら入っていないということで、しっかりとした根拠を示していただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進室次長。

○市政変革推進室次長　行財政改革でこれまで取り組んできた分については、平成26年から大綱をつくって、毎年度、行財政改革推進計画ということで、当年度の取組の目標と、決算時期には取組結果をお示ししております。その中で、毎年毎年の取組状況を効果額という形でお示しをさせていただいているところです。今御指摘のありました点も踏まえまして、これまでもそのあたりはしっかりお示しをしてきたのではないかとは考えておりますが、また御意見をいただきながら、しっかりとお示しできるものはお示ししたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）根拠となる数字をきちんと示してもらわないと。この437億円がどういう形で出されてきたのかというのを。大きく見据えていくためにされていると思うんだけど、同時に、井上構成員が削減だけでいいのかと言われていましたよね、指定管理者でも委託先でも努力しているけども、もう限界だと。だから、削減ありきではないと言われていますけども、どういう効果を出していけば市政が発展していくのかっていうあたりも、きちんと示していただきたいと思うんですよね。

同時に、今回、第１回目だっていうこともありますけども、パネラーの方々がそれぞれ発言されましたよね。本来であれば、主要テーマでこういうことを市としてはやりたいんだと。そのことについて、皆さん、第１のテーマは、こういうことで議論してほしいとか、テーマを絞った議論がされていないんで、そこら辺は工夫されるようになるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　今回は第１回目ということもございまして、なかなか具体的に項目を上げて議論というところまではいけなかったんですけれども、基本方針をつくって、それがベースになっていくというところもございましたので、まずは、その基本方針に関すること、市政変革に関すること全般で御意見を伺いたいと思いまして開催いたしました。

今後は、具体的に経営分析とかが始まっていくと、テーマであったり、具体策とかが出てくるかと思うので、そのときは市政変革推進会議にも御相談させていただいて進めていきたいと考えております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）第１回目だっていうことで、今回は自由討論みたいな形になったと思うんですけども、次回からは、こういうテーマで議論してほしいという焦点がはっきりと定まるような形の議論をしていただきたいと思うのと、あくまでこれは参考意見ですよね。一人一人が言ったことを全て取り入れていくわけじゃないでしょう。同時に、彼らが言われた意見は今後どのように反映されるんですか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　今、大石委員がおっしゃったとおり、意見聴取でございますので、全てを反映していくというわけではなく、この会議でいただいた意見について、また市政変革推進室でいろいろ協議をして、必要に応じて載せていくという形になります。

　ですので、今後も第２回、第３回と進めていきますけれども、意見をいただいて、我々の中できちんと考えた上で反映していくというような形をとっていこうと思っております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）今後、その辺が具体的に反映されていくような形になっていくと思うんですけども、ぜひ、削減ありきではないんだということであるならば、企業の誘致だとか、それだけじゃなくて、そこで働いている人たちの賃金、労働条件とか、一人一人の幸福度、どうしたら市民所得が増えて、人口が増えていくのかというあたりの視点も、この中には見えてこない。これから６つの視点を持って、棚卸しの事業を示されていくっていうことですけども、どんな棚卸しか示されていないんで、今後どうなっていくのかっていうあたりが見えないので、なかなか議論しにくい面がある。今後、3,000点の棚卸しのことだとか、どういう方向で改善して、一応６つの視点が出されていますけど、まだその辺が見えないんですけど、今後見えてくるようになるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　委員に御指摘いただきましたとおり、今現在、私どもで予算事務事業の棚卸し、これは、全会計、全事業、約3,000事業ございますけれども、レビューを行っているところでございます。基本方針に６つ程度、主な視点を示させていただいていますけれども、これらの視点に基づきまして、今後、行革の効果というのは令和６年度予算に向けて具体的になっていくものと考えておりますので、それらの視点を踏まえまして、事業の優先順位づけですとか絞り込みを進めていきたいと考えております。その中でお示しできるように取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）棚卸しのことだとか、６つの視点は出されていますけども、まだ具体的なところが出されていない。市民に痛みを伴うようなものが出てくれば、当然市民の

意見も聞いてほしいし、議会でも諮っていただきたいと思うんですが、来年度の予算に反映させていくっていうことですけども、具体的な内容は大体いつ頃に見えてくるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　棚卸しの成果をどう考えるかですとか、効果額をどう把握して公表していくかというのは、申し訳ございませんが、これからの検討になると思いますが、基本的には、申し上げましたとおり、予算と併せて今後も見直し、これは削るもの、それから、新たに強めていくものを含めてお示ししていくことになると思います。年度内にはお示しできるように取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）これまでは削減ありきだったように私は思っています。こういう形で出されていますけど、これからは削減ありきじゃないんだということでは一致できるんですけども、具体的な内容が出されていないんで、早く出していただいて、結局は市民所得が増え、人口が増えていくような方向にしていきたいということであると思うので、ぜひそういう方向になるように期待をしております。終わります。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）よろしくお願いいたします。私も、８月３日に行われた市政変革推進会議を傍聴させていただきました。ありがとうございます。

　まず、この議事録ですけれども、まず、遠藤構成員から、361億円のほかにも効果がある、合わせたものが実際の効果だと考えているのかとか、いろいろ質問が出ていたと思います。執行部は会議の中でそのお答えをしていたと思いますが、多分参加をされていない議員もいるので、まず、構成員の質問に対する答えをお聞きしたいんですが。もう一度確認をさせてください。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　この会議録は発言要旨ということで、こちらから回答したものとか、構成員の話し言葉であったりするものを、分かりやすくまとめて集約したものをホームページとかで上げようと考えております。今の時点で、どういう発言をしたかというのを手元に持っていないので、申し訳ございませんけれども、また、後ほど御相談させていただけたらと思います。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　少し補足をさせていただきますと、構成員から御意見をいただいたのは、行財政改革の直接的な効果として361億円、実際に効果として認められるもののほかにも、仕事の見直しを行ったのであれば、その見直した結果。例えば、仕事がなくなった職員が別の仕事をすることによって、新たな価値を生み出すことができるのではない

かとか、そういう視点を踏まえて行革効果を考えるべきだというような御意見をいただいたと私は考えております。確かにその効果をはっきりと示すことができれば、より行革を具体的に成果としてお示しすることができますので、ぜひそうしたいなと考えているところですが、なかなか把握もしづらいところですので、それは今後の研究材料にさせていただきたいと現時点では考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）構成員から様々な質問も出まして、それに対して執行部も真摯にお答えしていたと思います。その旨をホームページに掲載されるということですので、それを待って、もう一度精査をしたいと思います。

この市政変革推進会議の議論の中で、まず、官として何をやっていくのかということが一つのテーマになっていたのかと思います。何を削るのかという前に、行政でしかできないところ、守るべきところ、そこを明確にするべきではないかというような、それに類するような質問も出ていたと思うんですけれども、その辺は市では明確になっているのでしょうか。どうしても官でしかできない、行政でしかできない、市民生活に影響を及ぼす重要な部分があると思います。その点をお伺いいたします。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　今、御指摘いただいたとおりで、行政には福祉ですとか、民間ではなかなかペイできない公共事業とか、そういったものがございますので、これらは我々行政の役割としてしっかりとやっていく。一方で、民間にお任せできる部分、公と民とで連携をしながらやっていく部分と様々ございますので、これらにつきましては、現在の棚卸し、それから、今後実施してまいります経営分析の中で、それらの役割分担だとか、それぞれの意義、仕事の在り方について整理をした上で、しっかりと議論を踏まえて整理をしてまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）今、市民の中では、聖域なき行財政改革という言葉が先行いたしまして、いろいろなことが何もかも削られてしまって、市民生活に対する影響が大きいのではないかという懸念の声も出ています。そこを払拭するために、まず、ここはしっかりやっていきますと、ここは行政の役割でありますというメッセージを出していただければ、市民も安心して、この行財政改革に理解を示すのではないかと思いますので、まず、そこをぜひやっていただきたいと思っております。

そして、行政で無駄な部分があるんでしたら、そこを削って未来への投資に振り向けると最初から言われております。その未来への投資というものの具体性がないと、投資してよいものかどうかの判断もつきにくいと思うのですが、具体性が伝わってこないんです。その辺の視点はどのようにお考えでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　御質問に御答弁させていただきますと、未来への投資に関しましては、例えば、今、企画調整局で検討を進めております新しいまちづくりのビジョンですとか、市長の公約ですとか、あとは、令和６年度予算でどのような事務事業を予算化していくかというような内容と目線を合わせながら市政変革も進めていかなければいけないと考えております。今回、基本方針をお示しいたしましたけれども、市政変革の具体的な取組は、推進プランとして年度末に向けて取りまとめを行ってまいります。その中で、今後、新ビジョンと市政変革推進プランと両輪でといいますか、歩調を合わせながら検討を進めて、未来への投資の内容についても反映させていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）構成員からも意見が出ておりましたが、今のところ、全体的にふわっとしていると、具体的なものが見えていないということを指摘されたかと思います。市民も同様で、何となくイメージが先行しているけれども、結局、未来への投資とか、具体的に何なのかが分からない、成長のための投資目標額がないだとか、そういうことも指摘されておりました。削ったものを具体的にどう生かして、そして、どうなっていくのか。その具体的な投資先はどこなのかというのも明確にしていただきたいと思います。

　そして、この案の中で、市民との公開対話ということが21ページに書かれております。この市民との公開対話というのはいつになるのでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　様々な方から御意見を伺いながら、市政変革の取組を進めてまいりたいと考えております。具体的な時期は、すみません、検討させていただいているところですが、今年度中には実施をし、市政変革推進プランの策定の中で御意見として取り入れさせていただきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）分かりました。プランの中で、各事業所の幹部とかが自主的に目標を定めて、部署、部署で改革していくっていうのがありました。新しいことに挑戦していく意識を持つということなんですが、それは部署ごとではなくて、市全体で何かひな形とかスキームとかを作る予定なんでしょうか。こういうところに着眼してやっていくとか、ＫＰＩだとか、そういう目標数値を具体的に作るとか、そういうことをお尋ねいたします。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　市政変革の今後の進め方に関して、市としてどういう動きをしていくかということでございますけれども、棚卸しで今、課ごと、予算事務事業ごとのＫＰＩを定めております。これらを基に、今後はもう少し大きな政策のまとまりとして経営

分析を実施し、その中で、ＫＰＩの設定ですとか、ＥＢＰＭサイクルを回すための仕組みづくりをしていきたいと考えております。それを踏まえて、局ごとにその事業の評価を行った上で、新たな施策をどう打っていくかの検討ができるような土台づくりをしていきたいと考えております。市長のトップマネジメントの下に、各局、自主性を生かした組織体制づくりというのを目指しておりますが、今後、具体的な検討を進める中で実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。新しいものにチャレンジするという心意気というか姿勢は、とても大切なものだと思います。しかし、何でもかんでも古いものを切り捨てて新しいものをやっていけばいいのかっていうと、そういうわけでもないので、そこはしっかりやっていただきたいと思います。構成員からも、効率だけではなく、価値に置いた細分化した指標も大切ではないかというような意見も出ておりまして、私も同意見です。指標もいろいろな指標がありますけれども、効率化だけとか予算の面だけに置いてしまうと、本当に大切なもの、二度と取り戻せないものを失ってしまう可能性がありますので、そこはぜひしっかりやっていただきたいと思います。

構成員の話を聞いてすごく思ったんですが、経営者目線というか、有効な意見も多かったと思います。そこをしっかり生かしていただきたいと思います。今回の構成員の話を、多分、官民連携ディレクターとか民間の行財政推進員も聞いていると思うんですが、その官民連携ディレクターや民間の行財政推進員の意見などを聞いていましたら教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　意見交換とかアドバイスをいただく中で、私が感じているのは、民間目線での意見もあって、そこは取り入れてほしいという御意見をお持ちです。一方で、行政としてこれまでの蓄積があり、それを生かしたほうが、市民サービスとして、より充実したものになっていく、現実を踏まえた施策になっていくという部分があるので、それは実感としてあるというのは、意見としていただいています。つまり、経営分析として、費用対効果の面で収支を見ながらやっていくことが適合する部分もあれば、そうではない分野もあるので、そこは適切に見直しの方法をしっかりと検討しながら、よい方法を選択すべきだと、我々も考えておりますし、民間の方もそういう意見だと認識しております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。おっしゃられたように、今まで行政で蓄積した知見だとか経験というのは大切だと思っております。そこを生かしながら、今後も進めていただきたいと思います。第２回、第３回の会議も注目しております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。岡本委員。

○委員（岡本義之君）１点だけ。第１回の市政変革推進会議が８月３日の午前中10時から12時まで行われたわけですけども、構成員10名のうち、オンラインも含めて８名が出席、お二人が欠席。事前に意見を伺っているということで、その紹介もあっておりましたけども、４回しかないこの会議の第１回目に欠席が出たっていうことについて、どんなふうに調整をされたのかですね。４回しかない大事な会議で、確かに構成員を見ると、皆さん、大変忙しい方ばかりなんですけど。オンラインも含めて出席扱いにしているわけですが、今後の日程の決め方はどのように考えているか教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　私どもも、４回しかないので、構成員の方々10名全員に出席いただいて、様々な意見をいただきたいという思いは委員と一緒かと思っております。ただ、今回日程調整をした中で、別件が入ってしまっていて、オンラインも含めてどうしても参加できないという方とかがいらっしゃって、一番多い８名が参加できる日程で調整させていただきました。今後も10人全員が参加できるように調整していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）分かりました。日程調整はなかなか大変だとは思いますが、市長の肝煎りで始まった会議でもありますし、構成員の皆さんも、その覚悟で構成員になっていただいている部分もあるかと思います。できるだけ早めに、やられていると思いますけど、オンラインも含めて参加してみて感じることもあるかと思います。今後の日程の設定はしっかりまた努力して、全員が参加できるようにお願いしたいと思います。私は以上です。

○委員長（佐藤栄作君）成重委員。

○委員（成重正丈君）意見ですけど、私どもは前回、ぜひ皆さんに参加していただきたいと言いましたので、60年たって次の第一歩なので、ぜひ参加していただいて、すばらしい意見を出していただければと思います。計画も本当にすばらしいものができていますので、実行に移していただければと思います。よろしくお願いします。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。戸町委員。

○委員（戸町武弘君）まずは行財政改革の取組ということで、平成26年度以降のデータがあったんですけども、柱３の官民の役割分担と持続的な仕事の見直しについての約361億円の中で、これ、官民の役割分担っていうのはよく分かるんですけども、問題点として、指定管理者制度。最初、この指定管理者制度を導入したときには経費の問題ではないと。民間のサービス、知恵等を導入して、よりよいサービスを提供するために指定管理制度を導入しますという話があったわけですよね。しかし、現実はどうなっているかというと、毎年毎年、指定管理料の契約金額が下がってきた状況も過去にあったのではないかなと思っ

ております。現在どういう状況になっているかっていうのは調べていませんが、ぜひこの行財政改革の中でワーキンググループをつくらないようにしてもらいたい。どんどん皆様方が行政改革をして経費を減らしましたっていうのは、すごくいいことなんだけども、しかし、民間ベースから見たときに、本当にそれがプラスになっているかどうなのかっていうのは、内容を含めてよく検討してもらいたい。

そして、保健所の問題もそうです。今現在、保健所は１か所ですよね。これが本当にいいことなのか悪いことなのか、皆様方、真剣に考えられたほうがいいのではないかと思っております。この保健所っていう機能は民間ではできないわけですよね。これを１か所にしている。そういったときに、新型コロナウイルスのまん延があった。じゃ、これにしっかり市が対応できていたのかと。これは検証していくべきではないか。こういったことも含めて、行財政改革の中でぜひ取り上げてもらいたい。保健所を削ったっていうことは、この分野に関して人材育成がされていないんですね。だから、ただ単純に行財政改革をして、効率的な行政をつくればいいものなのかというのは、この頃少し疑問点を感じます。この免疫学っていうか、ウイルスに関しては、多分、何十年かに１回は、これからパンデミックみたいなことが起きることが予想されているのではないかなと思いますから、その辺も含めて、先ほどの取り返しがつかないようなことにならないようにという言葉を、皆様方には重く考えてもらいたいなと思っております。意見です。

○委員長（佐藤栄作君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）資料を見せていただきましたけど、委員の皆さんから多数の意見をいただいています。これは市政運営上の会合ですから、あくまでも参考にしていただいて、これを作るのは市の担当の方だと思いますので、それを参考にして立派なものを作っていただきたいと思っています。

総論的な話は、あまり私も細かい意見を言えないので、次回以降もっと各論、特に公共施設のマネジメントのところは、僕は難しい問題で、有識者の中ではなかなかそこまで入れることは難しいところが多いんじゃないかなと思っていますので、このところをどういうふうに進めていくのか、今のスケジュールで本当にいいのか、そういうところも含めて今後検討して、また、まとめていただきたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありますか。井上委員。

○委員（井上純子君）私から市政変革について何点か質問させていただきます。

私も市政変革推進会議の第１回目に参加、傍聴させていただきました。市の方向性がどこに行くのか具体的な説明がない中で、自由な方向で各委員が話をされていたので、第１回目ということもありますが、なかなかまとめていくのが難しいなという印象でした。各委員から、目標値を求める声や、各区最適化ではなく、市政全体の最適化からの成長を求める声もありました。その中で、市民を代表する構成員の方々も、今の市の財政運営につ

いて問題視していることが伝わる、いい機会ではありました。

この会議資料の中で、これまでの前市政における行財政改革推進大綱の資料も見比べることができたんですけれども、改めてこれまでの推進大綱というのが、項目は聖域に踏み込む内容ではあったんですけれども、なかなか結果が出なかった、それは目標値がなかったからだと思っています。だからこそ、武内市政には結果を求める声があるように、これまでの推進大綱にあった項目は最低限拾いながら、目標値は出していかなければいけないと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　今回、第１回の会議を開いた中で、ゴールが見えないとか、目標が設定されていないっていうような御意見は多数の方からいただきました。そこで、我々も室内で協議をしまして、今回の基本方針の14ページになりますが、具体的な数値目標とか行動目標については、今年度中に策定いたします市政変革推進プランに明記をさせていただきたいと思い、今後、検討を進めていきたいと考えております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。今までの推進大綱も改めて見ると、内容、項目はすばらしいなと。方向性はよかったんだけども、結果が出なかったこと、そこだけが残念なので、今までよかった方向性はぜひ生かしてもらいながら、結果を出すプランを期待したいと思います。

続きまして、資料の中にあります北九州市の課題の中に、人口減少と経済成長の停滞、３つ目に老朽化対策があります。これは、今年の公共施設マネジメントを着実に推進していかなければいけないという大きな課題がありながら、今年の春、市内の小学校で外壁が落下して子供がけがをするということをきっかけに、武内市政になって、市民の安全・安心を守る老朽化対策チームを立ち上げて、本年秋頃をめどに対策を策定することとされています。早速、市内の施設を総点検して今年の７月までの中間報告が出された中で、学校の施設においては約９割、88％が外壁落下のリスクがある、今すぐ修繕が必要だとされています。ニュースにも出ているんですけれど、これを受けて、もともと市民の安全と安心を守るというチームの立ち上げの目的の１つ目に、施設情報を分かりやすく情報発信すると定めているんです。であれば、どこの施設が落下のリスクがあって、学校でいうと、もう２学期が始まるところなんですよね。なので、自分たちの通う学校が安全なのか、今どういうふうに修繕を進めているのか、伝えていく責任があると思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）公共施設マネジメント担当課長。

○公共施設マネジメント担当課長　井上委員がおっしゃったように、老朽化対策チームをつくり、一斉に緊急安全点検をして、危険なもの、それから、すぐ手がつけられるような

対策については同時並行で進めてまいりました。うち、どれぐらい進んでいて、どれぐらい終わっていないのかとか、そういったものについて、今チームで整理しております。

マスコミでは、学校の８割とか９割について危険なものがあるという報道もありましたけど、中には、程度でいうと軽微なものとかも含まれております。そういったものを整理すると同時に、すぐできるものはやっているということです。じゃあ、それをつぶさに市民の方へ伝えるかといったことにつきましても、今チームの中で、最終的にどういった形で出していくのか、いろいろ議論しておりますので、10月にはしっかりと報告したいと思っております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）これについては、つぶさに市民全体に伝えなくても私はいいと思うんです。今後の市政変革に向けて、課題として問題提起していくという意味では有意義な情報だとは思うんですけれども、今回のプロジェクトチームの市民の安全と安心を守るという趣旨から考えれば、子供の保護者は学校が９割も危ないというニュースを見たら、せめて自分の子供の学校がどのぐらいのリスクがあって、どういう修繕状況なのか知りたいと、安心を求めるのは当たり前だと思うんですよね。ですから、10月に方針を出すのではなく、今修繕を進めているのであれば、軽微であれば軽微という情報でいいと思うんです。しっかりありのままに、少しの修繕で済むのであれば、それはいい話ですから、安心させるということが行政として必要だと思いますので、そこは教育委員会と連携して、学校の保護者に今の修繕状況、そして、どのようなリスクがあったのか、点検結果と今後の対策についてはっきり伝えていってほしいと思います。これは要望です。

続きまして、資料にあります目指す方向性について追加で聞かせてください。

１つ目に、新たなビジョンにベクトルを合わせた市政運営ができていることとあるんですけれども、その中の②に、必要な財政資金の配分が施策の評価と連携し計画的に実施されることとあります。これは当たり前なんですけども、あえて表現したことを評価しています。ただ、当たり前に求めて今までできていなかったと思っているんですけども、これから実現するための方法は、具体的にどのようなことを考えているのか教えてください。

次に、(2)の財政状況を改善した上で、経済社会構造の変化に対応した柔軟で機動的な意思決定ができるとありまして、この中に、市政変革推進会議の第１回で岡野委員からも意見があったんですけれども、中期財政見通しで100億円足りないと。でもしかし、未来へ投資をしたいのであれば、さらに大きく年間数100億円捻出する行財政改革の目標が必要ではないかと、議論しないといけないと指摘もあったところです。この方向性は必要な方向性として評価はするんですけれども、市債残高の抑制、財政規模を適切にマネジメントと、ありたい姿としては記しています。ただ、今年度の当初予算は市債残高を積み上げています。財源調整用基金を取り崩しています。財政規模は過去２番目です。矛盾を感じている

わけですけれども、これについてどのように捉えているか教えてください。

最後３つ目に、各事業所管部署が自主的に目標を設定し、自律的な経営判断を行い、事業実施できるとされているんですけれども、これも当たり前のことで、表現したことには評価するんですけれども、心配していることがありまして、なぜなら、これも前市政で詳細な事業評価をするシートを作っていたわけでもないですし、結果としてはトップマネジメントがなく、評価されやすいＫＰＩを担当部署が担当部署目線で変えてしまうという事例もあったと思っています。なので、本来の事業目的や市政全体の目標に向かってリードしていくマネジメントというのはすごく難しかったという印象があるんですけれども、そのような中で、事業部署が自律的な経営判断ができるのか、トップマネジメントに逆行するのではないかと危惧しますが、これを防ぐいい方法は考えているのか教えてください。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　必要な財政資金の配分が施策の評価と連携し計画的に実行されるのが、どういうふうに進められるか。それから、中期財政見通しで収支不足が毎年100億円程度ある中で基金残高が減少すること。それから、新たな投資のためには、さらなる財源が必要なこと。それから、令和５年度予算で予算規模が大きくなっている、市債残高、投資的経費が規模も大きくなっている辺りを、どう踏まえているか。それから、自主的に各局が事業実施をしていくにはどういうシステムがよいかと、様々な御意見をいただきましたけれども、これらの内容は基本的には、今、棚卸しでＫＰＩを設定し、今後は経営分析でクラスターごとの成果指標だとかＥＢＰＭ手法を組み立てていこうとしております。これが成り立った上で、各施策、事業ごとに評価を行うシステムを市の中につくりまして、それに基づいて新たな事業が予算化されていく、もしくは、今実施している事業が評価され、見直しが行われていくという具体的なシステムが、これらについての解決策になるのではないか、そういうふうに持っていきたいと考えております。自主的に各局が施策を行っていくというのは、当たり前といえば当たり前のことであるのは、本当に委員のおっしゃるとおりではあるんですけど、それが、例えば予算編成過程の仕組みの中でどう反映されていくかとか、各局の自主性がどのように具体的な予算に反映されているようになるのかとかが、この市政変革の取組の中で具体化されていくように取組を進めたいと思っています。今現在で、すみません、具体的な手法がこれというのはありませんが、そういう仕組みづくりが、御質問への回答になるのではないかと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。そうですね、新たな事業評価システムが必要である、それはそのとおりなんですけど、具体性がまだなかったことは残念と思いながら、ここは期待したいと思っています。ただ、説明にありました事業部署の自主性を大事

に生かしながら、現場を見ているから、ある程度の自主性は大切だと思うんですけれども、予算編成をしていく中での各事業部署へのインセンティブとかも１つだとは思うんです。予算編成はどこの自治体もそうだと思うんですけど、１年間の半分ぐらいを予算編成に使って、膨大な労力をかけていくと思うんです。まさに来年度の予算編成を今から行うからこその、これは要望なんですけれど、どうしても各事業局それぞれに平等に、これだけ減らしましょうとか、画一的な努力をさせがちだと思うんですけど、予算全体の方針をある程度、市長からもっと具体性を引き出して、今年はこの局に注力するとか、局平等ではなくてもいいと思います。予算編成の効率化は市職員の時間外労働を減らしていくことにもつながりますし、インナー的な改革も併せて、効率よく、市長の意見をなるべく早め早めに引き出しながら、予算編成に生かしていき、各事業部署が目的意識を、市長と連動させて進めていけるような体制を。じゃあ具体的にどうするかは難しいんですけれども、今後、新しいシステムを期待しています。よろしくお願いします。

財政マネジメントの中で１つ、目標値を今後出されていくということなんで、最後、要望なんですが、今、年間100億円足りない、今後、投資を含めれば、数100億円を目指していかないといけないと個人的には考えているんですけれど、最近、原油価格が高騰し続ける中で、国もガソリンの補助金をいつまで出すのか、秋以降もあるのかとか、あと、光熱費の高騰を抑制する補助金も秋までだったり、さらに、市政においては給食費の食材費の高騰の差額補塡もずっと継続して行っています。地方創生臨時交付金を充当して対応しているんですけれども、今後いつまで続くのかも見通しが分からなくなってきていると思うんです。さらに、国家公務員が週休３日制になっていく方針がいずれ地方にも回ってくれば、人件費も高騰していく、経常経費がどんどん圧迫していくという見通しができていると思うんですよね。ですから、コロナバブルという言葉があったり、持続化給付金だったり、雇用調整補助金だったり、あと、金利がない融資、そういったものがなくなったときに、破綻していく企業や事業所が増えているというニュースがあったように、自治体も人ごとではないと思うんですよね。国からの支援がいつまで続くか分からないという緊張感が要ると思っていますので、今後、目標値を出すに当たって、原油価格の高騰による物価高とか、人件費が上がっていくことも見据えた、もっと現実的な、次のリスクも見据えた目標値の設定を求めたいと、最後に要望して終わりたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君）三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君）先ほどから出た御意見と重なるところもございますけれど、私も、行財政改革でワーキングプアを出さないと戸町委員がおっしゃった、これはまさしく大事なことだと思っています。結果的に、将来、保護につながっていくというのが現実であります。今、行財政改革でぎゅっと締めたとしても、将来支出を増やしては何にもならないんですね。特に、将来のほうが子供たちの数も減っていっているわけですから、余計に負

担がかかってくることを考えれば、将来に問題を残すような形の政策というのはいかがなものかなと思います。

それと、今、井上委員もおっしゃったんですが、社会背景、現実に今見えているところというお話もありました。これは目標値が2040年ぐらいだと思うんですけれど、この2040年というのは、2040年問題っていうのもあるぐらい、非正規雇用の方たちが60歳から65歳くらいになる年代なんです。そうすると、この年代は年金のない方が多いと思います。ここも保護につながる影響がすごくあると思っています。ですから、本当に厳しいとは思うんですが、こういった社会背景を。

それと、先ほど学校の外壁の御意見もありました。これも、今言われているよりも、もっと深刻だと正直言われています。今、軽微なやり替えをしていますけれど、業者の方からは、これじゃあもう追えないというような御意見も現実に聞いております。それを考えると、今、取りあえず軽微なところをやっているかもしれませんけれど、本格的にやっていかなければならないような状況ではないかなと。そういったところも、現実をしっかりと踏まえていただきたい。市営住宅もしかりです。市営住宅も、ぱらぱらぱらぱら落ちてきています。たくさんある分だけ、どう考えるかっていうこともあって、理想をちゃんと掲げながらも、でも、現実は物すごく厳しいことを踏まえた上で、将来に禍根を残す、要は、後に後に全部残してしまっては何にもならないんですよね。2040年の時点で、あらあら、こんなに大変になってしまったっていうことでは困るので、そういった現実を踏まえた、しっかりと社会背景も踏まえた上での計画が必要ではないかと思いますが、この点について見解をお聞かせください。

○委員長（佐藤栄作君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長　現実や社会背景を踏まえた取組にすべきということに御答弁させていただきます。

行財政改革そのものは、目の前の課題に対する解決策、それから、将来に向けて懸案される事項に対する解決策、両方の視点で取組を進めてまいります。同時に、新ビジョン、それから未来産業創造、それぞれでまちづくりをどうすべきかを考えていくことになりますので、それらを含めて、単に予算を削るだけではなく、財政の模様替えと申し上げておりますけれども、これらを一体として市として施策をどう進めていくかは、御指摘いただいた内容を踏まえて取組を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君）ありがとうございます。ぜひ、現実を踏まえていただいて。

もう一つ、先ほどもお話がありましたし、私もこれまで本会議で何度も質問させていただいております人手不足の問題で、今、北九州の製造業や様々な業種で、本当にいつやめようかというような状況が続いています。先ほどもありましたけれど、コロナのときに、

本来だったら借りられないお金をコロナだからという理由で借りている会社も結構たくさんあって、私も非常に危惧するところでありました。そういったところが今後かなり経営が厳しくなるっていうのは、もう目の前の状況だと思います。私どもが申し上げたことだけではない、本当に厳しい社会情勢がたくさんあると思いますので、その点もしっかり踏まえていただきたいと強く要望させていただきます。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。

ほかになければ、次に、人口増加対策についてを議題とします。

本日は、北九州市の新ビジョンを考える際の視点について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。企画課長。

○企画課長　それでは、人口増加対策について御報告をさせていただきます。

ファイル名、02所管事務、人口増加対策についてを御覧ください。

本日は、新たな北九州市のビジョン策定の経過ということで、現時点での新ビジョンを考える際の視点について御報告をさせていただきます。

新ビジョンにつきましては、10月をめどに骨子を、12月をめどに素案を作成し、パブリックコメントを経て、最終案を作成する予定としておりますが、本日は、骨子の検討に当たっての現段階での視点についての御報告とさせていただきます。

まず、１の北九州市を取り巻く環境を御覧ください。

新たなビジョンの策定に当たりまして、市の課題やポテンシャルを踏まえ、検討を行っているところでございますけども、(1)の北九州市が直面する課題としましては、日本の他都市やアジアに先んじて本格化する少子高齢化、人口減少の問題、また、産業構造の転換や企業の流出などによる経済成長の鈍化。このような点につきましては、先月26日の総務財政委員会で、データなどでもお示ししたところでございます。そのほかにも、デジタルトランスフォーメーション、グリーントランスフォーメーションの推進による生産性向上や高付加価値化、カーボンニュートラルなど新たな環境問題への対応などが上げられます。

その一方で、(2)の北九州市のポテンシャルにつきましては、多様性を受け入れる包摂性にあふれ、産学官民の連携で前へ前へと進んできたチャレンジ精神、公害克服を糧に、環境産業や環境国際協力に取り組んできた環境先進都市、アジアに近く、水源が豊富で、地震が少ないなどの土地の優位性、ものづくりの町としての産業の集積、物流、交通インフラの充実などが上げられます。

こうした課題やポテンシャル、また、新ビジョン検討会議、北九州市アドバイザー、さらに、各区で現在開催しておりますミライ・トークで出された意見などを参考としながら、新ビジョンの検討を行っているところでございますけども、現時点での新ビジョンにおける目指す町の視点としては、その下の２に記載しているとおり、まず１点目に、人の熱さや産業の力といった北九州市のポテンシャルを最大に発揮することでの稼げる町、経済成

長の実現。２点目に、人や企業を呼び込むため、また、市民サービスの質の向上のため、稼げる町による成長の果実を基に、質の高い観光や文化などのサービス、また、生活や教育の環境を提供できるようなハイクオリティーな町。３点目に、２点目も加えた成長の果実を基に、市民サービスや都市基盤を適切に維持、充実することで、子供から高齢者、障害の有無、性別、国籍にかかわらず、誰もが安全に安心して暮らせる町を考えております。こうした成長と幸福が好循環する新たな社会経済システムを実現していくことで、人口減少や少子高齢化など、世界に先駆けて直面する社会課題解決に向けた道筋を、日本全体やアジアに示しながらの展開ということで考えております。

次のページを御覧ください。

今、御説明をしました新ビジョンにおける目指す町の視点について、イメージ図として整理したものでございます。左側の図では、北九州市のあらゆるポテンシャルを発揮しながら、まずは稼げる町の実現により、地域経済を活性化させ、さらに、ハイクオリティーな都市づくりを進めることで、これらで生まれた成長の果実を、市政運営の基本的なベースであります市民の安全・安心な暮らしの確保をしっかりと行っていくという考えでございます。こうした成長と幸福の好循環を回していくことを実現していくことによりまして、右側の図になりますけども、人口減少や少子高齢化の社会における新たな社会経済システム、成長モデルを社会課題解決の道筋として示していくことで、日本全体やアジアの発展にも貢献していくという展開を考えているところでございます。

今、御説明しました目指す町など新ビジョンの考えの視点を検討するに当たりましては、７月27日に第１回目を開催しました北九州市新ビジョン検討会議による各構成員からの意見、また、７月13日に東京で開催しました北九州市アドバイザー意見交換会での各アドバイザーからの意見、さらに、７月17日から戸畑区でスタートしております、これまで、若松区、小倉南区、小倉北区、八幡東区、門司区で開催されておりますミライ・トークでの意見、また、総務財政委員会で報告の際にいただいた御意見なども参考にしております。

次の３ページ以降は、新ビジョン検討会議、北九州市アドバイザー、ミライ・トークで出された主な意見をまとめている資料となっております。星印が北九州市アドバイザーからの意見、ひし形の印が新ビジョン検討会議の構成員から出された意見、丸印は、八幡東区の開催分までの各区のミライ・トークのパネリストから出た意見となっております。御意見の内容につきましては、時間も限られておりますので後ほど御覧いただきたいと思いますけども、現時点での新ビジョンにおける目指す町の視点に沿って、意見の内容を並べて整理しているところでございます。

なお、新ビジョン検討会議、また、北九州市アドバイザー意見交換会につきましては、議事録とアーカイブでの動画を市ホームページで掲載しております。また、各区のミライ・トークにつきましても議事録やアーカイブの動画を掲載しておりますけども、当日の会場

で回収しました、紙でのアンケートで出された全ての意見につきましても、ホームページで閲覧できるよう、現在、一覧を整理しているところでございます。

本日は、新ビジョンにおける目指す町などの視点について、10月めどの骨子の策定に向けて、現時点でのイメージや考えということで御説明をさせていただきました。今後も新ビジョン検討会議における各構成員の意見や、ミライ・トークをはじめとした市民の皆様から寄せられた意見などを参考にしながら、ブラッシュアップをしていく予定としております。

今後の議会への報告につきましては、総務財政委員会を中心に策定経過の状況に応じて、適宜御報告をさせていただくこととしております。以上で報告を終わります。

○委員長（佐藤栄作君）ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。

質問、意見はありませんか。大石委員。

○委員（大石正信君）人口増加対策についての所管事務調査ですが、この目標ですけども、新ビジョン策定に当たって、市長が選挙で公約をした100万都市の再生。本来、きちんとしたビジョン、目標を示した上で議論をしていかないと、市民の意見を聞くだけではいけないと思うんだけど。北九州は１年間に7,000人減って、自然動態も減っている。市内総生産も３兆8,000億円で推移をしてきている中で、人口増ってなかなか難しいんですけども、原因があるから結果があるわけであって、その原因をどのように見ているのか。また、目標値をどのように設定されているのか、まず、お聞かせください。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　大石委員から御質問がありました、目標を設定するに当たっての原因の分析というところで、新ビジョンの検討に当たりましては、市の現状とかをきちんと分析しながら進めていくことが重要であると思っております。そのため、前回の総務財政委員会でも、様々な視点からの、人口も含めた客観的なデータをお示ししたところでございます。我々が今考えている、人口が減少している大きな要因としましては、雇用の確保、特に若い世代がどんどん転出超過になっているのは、市内の雇用状況を改善していかないといけないというところが重要であると考えております。

前回のデータでもお示ししましたとおり、福岡市とか他都市に比べまして、第３次産業も含めたところで、企業数とか、雇用者数が減ってきているような状況で、データを見ますと、そこに力を入れていかないとと考えております。

本日、稼げる町とか、ハイクオリティーな町とか、そういった視点で御説明させていただきましたけれども、中身につきましては、今御説明したようなところも含めて考えていきたいと思っております。

あと、人口のところで御質問がありましたけども、100万都市復活への挑戦につきましては、これまでの本会議でも、日本の近代化や経済成長をけん引してきた、かつての北九州

市の勢いを取り戻すべく、市民みんなで目指していきたいという思いで、こういったフレーズで市長も御答弁されてきたところでございます。こうした考えにつきまして、今回策定します新ビジョンの中に、どのような形で盛り込んでいくかにつきましては、今後の作業の中で検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）1995年に経団連が日本的経営っていうのを発表しました。労働法制の改悪によって、正社員は１割でいいと、あとの９割は派遣アルバイトやパートという非正規雇用が拡大してきた。北九州でも、そういう非正規雇用が４人に１人、そして、先ほど言われましたように指定管理者とかを含めて民間委託が導入されて、官製ワーキングプアと言われている非正規雇用が広がってきた。人口が減ってきた背景の中には、市民所得、暮らせない、結婚もできない、子育てもできない、こういう深刻な現状が広がっている。また、業者においても、ゼロゼロ融資と言われているような問題とか、消費税の10％増税、10月からインボイスが始まっていくという中で、圧倒的に多い中小業者が経営できないと。そういう問題について、人口だけが増えればいいわけじゃなくて、人口が増える背景の中には、市民の暮らし、中小業者の営業と暮らしがあるわけであって、その点をしっかりと出していただきたいんですよね。これまでは、数値目標の中で、企業誘致の数だとか雇用の数だけであって、問題は企業の中の正規雇用だとか非正規雇用だとか、賃金、労働条件とかって、全く触れられてなかったんですよね。

この稼げる町のイメージ図、これ真ん中に歯車がありますよね。この中身が問題だと思うんです。市民の安全・安心という大きな歯車がありますよね。こっちは曇っているイメージだと思うんだけど。このイメージの歯車、稼げる町っていう、この中身は。企業がいっぱい稼いだだけでは、アベノミクスによって500兆円をため込んでいるけど、還元されていないんですよね。この中身は、どんなふうに考えておられますか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　本日はビジョンの視点ということで、まだキーワード的なものをお示ししているところでありますけども、今、委員がおっしゃられた稼げる町の実現につきましては、市内の大企業だけではなくて、中小企業も含めたところで、今後、例えば技術革新による生産性向上とかを図っていただきながら、企業の収入を上げていただくことが大事になってくると思います。その上で、そこで働かれている方たちの給料とかいったところを上げていくというのは当然のことでございます。前回、市民所得のデータとかもお示ししたところでございますけども、我々としましては、市民の暮らしをいかに上げていくかというのが大変重要でございますので、稼げる町、ここは、また骨子とか素案で具体的な肉づけとかブラッシュアップをしていく中で、詳しい内容を盛り込んでいくことになると思います。我々としては、今そういった視点で考えているところでございます。以上でございま

す。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）これまでの意見の中で、産業の中で、労働生産性の向上と給与水準への反映、労働力率の改善が重要だと書いてあるんで、この点はよく分析していただきたいと思います。賃金はどうなのか、労働条件はどうなのか、そこで働いている人たちにハラスメントがないのかというあたりをしっかりと見ていかないと。ただ、企業の誘致の状況だとか、それだけじゃなくて、中身を見てほしい。

労働力率の改善って書いていますけど、これどういうことですか。言われた言葉だと思うんですけど、何か分かりますか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　このとき出た意見としましては、性別、年齢階級別の労働力率の比較ということで、男性の場合は、年齢階級別に労働力を見ますと、若い世代では全国や政令指定都市の平均とあまり差がないものの、65歳以上の高齢層でその差が大きくなっていると。あと、女性では25歳から34歳の年齢層で、全国や政令指定都市との平均の差が大きくなっているといったデータも含めたところでの御意見だと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）今度、最低賃金が引き上がったんですけど40円程度で、全国は1,000円ちょっとになっていますけども、福岡県は900数十円ということです。賃金が低いことで、結婚や子育てができないという状況がありますし、また、ハラスメントだとか、人間らしい生活ができないという現状もありますので、市民所得、人々の暮らし、企業の一つ一つの中身、漠とした外側だけじゃなくて、きちっと一人一人の人間や企業に焦点を当てた形の再生というか、そういう問題に注目していただきたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）北九州市の最上位プランである新ビジョンです。今まで申し上げてまいりましたが、これは、いかに市民と目指すべき方向性を共有できるかというのも成功の鍵になると思っています。そこで、お尋ねしたいんですが、この北九州市が実現する新たな社会経済システム成長モデルの稼げる町の実現ということであります。稼げる町になると、一体、市民にとってどのようにいいことがあるのかということが、周りの方に聞くとまだあまり伝わっていないんです。先ほどからいろんな意見が出ておりますが、一部の人が稼げても、それは全然幸せにならないわけです。非正規が多くなったり、官製ワーキングプアが増えたり、それは私は反対でありますし、皆が普通に働けば、普通に豊かになれる社会を目指すべきだと思っております。稼げる町になると、例えば、法人市民税が上がったり、雇用が増えたり、福祉の増進が図られて、一人一人幸せになりますよとかということが成長と幸福の好循環の一例ではあると思うんですが、まず、このところを丁寧

に説明していただきたいと思っておりますが、見解をお伺いいたします。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　目指す町の視点で掲げております稼げる町ですけども、先ほどから申し上げておりますように、市内企業の生産性向上で収益を上げたり、そこで働かれている労働者の方の所得を上げるという面もありますけども、今、委員がおっしゃられたように、そうした中で市の税収を上げていくというところにつなげていきたいと我々としては考えております。先ほども少し説明の中で触れましたけども、これらによって生まれる成長、具体的に言いますと、税収とかそういったところの増を基にしていきながら、市民サービスや都市基盤の適切な維持、充実という市政運営上の基本的なベースとなります市民の安全・安心な暮らしの確保をしっかりと行っていく。そうした中で、市民の満足度、幸福度を上げていくという、こうした循環をぜひ目指していきたいと考えております。ですから、今回お示しした資料とかも含めまして、また、市のホームページでも出していきながら、市民の御意見を伺いたいと思っております。私どもが御説明した内容も含めたところで、丁寧に今後も説明をしてまいりたいと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）市民の満足度を上げる、福祉の増進とかを自治体の本旨として図っていくということだと認識をしております。市民の満足度というのが一つの目安ではあるんですけれども、今、人口が減少して市民が非常に減っている中で、市民の満足度ということも１点なんですけれども、北九州市内に、この地域のことをいかに自分ごととして考えるか、いかにこの問題を共有して、自分ごととして動ける人をどれだけ市民の中に増やせるかということも、一つの課題だと思っております。

私も、実はこの北九州市に15年前に転入した、よそ者といえばよそ者なんですけれども、私は北九州市が本当に好きですし、市をよくしたいという気持ちでいるので議員になったわけなんです。しかしながら、今、新たに新住民っていう方が入ってきますと、移住地の選択が消費者目線であったりするわけです。なぜ入ってくるかというと、住みよい町だったりとか、土地の価格が低いだとか、自治体の提供する公共サービスがいいだとか、消費者感覚の人も結構多いなと感じております。自治体の持続可能性というのは、住民の地域へのコミットメントに支えられている部分が非常に強いと思うんです。だから、市民の認識を、お客様ではなくて主体者として引き上げていくということも、私は行政の役割の大きな、大きなキーポイントで、この新ビジョン作成が、そのきっかけになるんではないかと期待をしているところです。当事者意識、だから、顧客満足度というよりも、今、市民全体が本来は脱カスタマーにならないといけないわけです。市民の中にオピニオンリーダー層をいかに増やしていくか、お客様ではなく本人化していくかということが大切だと思っております。まちづくりの主体者をできるだけ増やすということですが、その点につい

てはいかがお考えでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　新ビジョンを今後実現していくに当たりましては、当然、行政だけじゃなくて、市民の皆様が主体的に自分ごととしてやっていっていただくというところが重要になってくると思います。そうした中で、委員がおっしゃられたように、今回、新ビジョンの策定に当たりましては、ぜひこのビジョンの策定を、市民の皆さん、お一人お一人が将来の町について考えるきっかけとしていただきたいと、市長もずっと言われております。そういったところから、早い段階からの市民の意見聴取ということで、各区のミライ・トークとか、今後、若者世代とか女性の方を対象にした意見交換会とか、ホームページ上での市民の意見募集とか、これまでのプランの策定でありましたら、素案ができた後のパブリックコメントで意見募集というところがケースとしては多かったんですけども、今回のビジョン作成に当たっては、早い段階から市の考え方とかをお示しして意見を集めていくという過程の中で、市民の皆さん、お一人お一人に、将来の北九州市を自分ごととして考えていただくという企画にしていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。そこでお伺いしたいんですが、ミライ・トークでも様々な意見を市民から出していただいて、今ネットでもその意見が応募できるようになっていると思います。この間、門司区のミライ・トークに参加させていただきました。市民からいろいろな意見があり、様々な意見を付箋に書いていただいて、貼っていくという可視化するような試みもあって、それはそれですごく有意義であり、よかったと思います。しかし、こういったミライ・トークをもう一歩進めて、その後にグループワークとか、そういったことをやっていけば、より市民力も高まっていくのではないかと私は思いました。私も出しましたし、ほかの議員からも、無作為抽出の市民討議会が必要ではないかというような意見が出て、それは実現はしませんでした。無作為抽出の市民討議会は、いかに自分ごととしてこの市のことを考えられる市民を育てていくのか、オピニオンリーダーを育てていくのか、いかに実践的に動ける人をつくっていくのかということも一つの目的であります。そういったグループワークとかを導入すべきと思うんですけども、いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画担当課長。

○企画担当課長　今回のミライ・トークでございますが、パネルディスカッションという形で行わせていただいております。このメリットといたしましては、地域で様々な活動をされているパネラーの方の意見を聞くことで、町が持つポテンシャルや将来像に対して気づきを得たり、今回、幾つかの区で高校生や大学生にもパネラーとして登場いただいておりますが、様々な世代や属性を持つ方の意見を聞いたりと、来場された皆さんが新たな視

点で、これからのまちづくり、将来像を考えるきっかけになったと思っております。ここで持ち帰った意見を、家族や周りの職場の方、学校の方、地域の方、いろんなところで、皆さんとお話ししていただいて、そこで輪が広がって、また、意見を市に出していただく。そういったところで自分ごととして考えていく市民が育っていくんじゃないかということで、今回の形を取らせていただいております。

グループワークについては、今のところは実施する方向では考えておりません。このミライ・トークを生かして、あと、今後、属性に応じて、またいろいろ意見を聴取する予定にしておりますが、そういった中で、ビジョンにつながる意見を取り入れて、必要に応じてつなげてまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）今回は無理ということでありますが、他都市を見てみますと、より議論を深めるようなグループワーク形式の市民討議会なども様々な自治体で行われております。その点ではまだ北九州市は、パネラーの意見を聞いて、今日こういう意見を聞いて考えてみよう、そこでとどまっている気がします。そこからまた一歩進めて、じゃあ、小グループに分かれて、より深掘りしていこう、深く考えていこうっていうような試みがまだまだ足りていないと思っておりますので、今後、何か催物をする際には、そういった、より市民参加の点をぜひ取り入れていただきたいと思います。

ちょっと視点が変わるのですけれども、この新ビジョンを考える際の視点について、北九州市のポテンシャルでは、多様性を受け入れる包摂性とか、アジアに近いということが上げられております。今までも様々出てきた外国人市民ということが１つキーワードになると思うんですが、外国人市民の新ビジョンへの反映というのが、今、検討されているのかいないのか、課題に上がっているのかいないのか、お伺いします。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　先ほど説明しました新ビジョンの視点の中で、最後の④で書いておりますけども、今後、北九州市が、成長と幸福が好循環する新たな社会経済システムを日本全体やアジアにお示ししていく展開を目指していくという目標の中で、今後さらに、世界、特にアジアの外国人の皆様との人的交流というのは活発になってくると我々も考えております。今回の新ビジョンの検討に当たりましても、外国人材の受入れ環境とか、そういった点につきましても、今、視点の中で検討しているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）検討されていることで理解をいたしました。いかに北九州市で人口が減っているかという分析の前に、日本全体で人口が減っているのですから、その点もぜひ踏まえていただきたいと思います。先日の北九州都市圏域の連携中枢都市圏ビジョンでも言いましたけれども、まず、日本全体で減少している、そして、北九州で減少してい

る。結局、日本人だけで北九州市の人口を増やそうっていうと、人口の奪い合いみたいなのにもつながってしまいますので、広い視点での議論を進めていただきたい、そして、それをビジョンに反映していただきたいと思っております。

様々な市民の方から御意見が出ているのを拝見いたしました。アドバイザー意見交換会を、私もネットで拝見いたしました。ここからもかなりいろいろな意見が出ておりましたが、このアドバイザー意見交換会は、全員が一堂に会するのは１回限りと以前伺いました。今後は個別にどのような関わり合いを持っていくのか教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　７月に開催しました東京での意見交換会につきましては、市長や幹部職員の国提案の上京のタイミングに合わせまして、アドバイザーの皆様に意見交換の場が調整できるかどうか投げかけたところ、全員の方が一堂でそろうことが可能な時間が調整できたことから開催したものでございます。アドバイザーの皆さんは著名で、大変お忙しい方々でしたので、当日１時間限定でさせていただきました。今後、こういった一堂に会しての意見交換というのはなかなか難しいとは思いますけども、先日、マスコミでも出ておりましたが、８月15日に隈研吾さんが九州に来られる御予定があって、時間がちょっとあるということで、北九州市にも寄っていただきたいとお願いをしました。数時間の滞在ではございましたけども、来ていただいて、小倉の町並みとかを見ていただきながら意見交換をしたところでございます。

今現在、各局からそれぞれのアドバイザーに意見をいただきたいということで、我々に相談等も幾つか出てきておりますので、今後、個別、個別の意見交換という形が出てくるものと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。それでは、契約というか、この10人のアドバイザーの方との関係性の中で、北九州市が意見を聞こうと思えば、いつでも聞けるような関係性になっているということでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　今回、北九州アドバイザーという形で御承認いただいておりますので、日程等の調整はいろいろ必要になってくると思いますけども、こちら側に来ていただくことはなかなか難しいかもしれませんが、今はオンラインとかでもできますので、ケース・バイ・ケースで御相談していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）著名な方ということは、確かにそのとおりで、皆さんお忙しい。ですので、公開の場ではなく、ここで御意見をいただきたいと思ったとき、オフレコでも御意見がいただけるような体制になっているのかどうか、お伺いします。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　７月のアドバイザー意見交換会につきましては、先ほど申しましたように動画配信とか、当日の議事録とかをホームページで公開させていただいておりますけども、今後、御相談する内容によっては、まだ表に出せないような案件等も出てくるかもしれません。内容に応じて公開する、しないとかというのは、それは相談する案件の所管になります各局の御意見を聞きながらになるとは思いますけども、柔軟に対応していくことになると思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）アドバイザー意見交換会は１時間でした。非常に時間が短く、10人いたので、１人10分もお話できなかったし、隈研吾さんも14分ぐらいで退席されて、ほかにも途中退席された方もいらっしゃいます。当然お忙しいので仕方がないと思うんですけれども、こういった可視化できる、大げさなことではなくて、細かなことで専門的知見が欲しいといったときに、オフレコでここはどうなのかって聞けるような関係性をぜひ構築していただきたいと思います。そうでないと、１回限りのショー的なもので終わってしまうのは残念なことだと思いますので、今後とも関係性は続けていただきたいと思っております。

今度また新ビジョンに反映するということで、女性との意見交換会が行われると思っております。８人の女性を市で選んで、トークをするということでありますが、この８人の女性の選定の仕方と、この会議を開いての目標とする効果についてお伺いします。

○委員長（佐藤栄作君）企画担当課長。

○企画担当課長　今回の働く女性と市長との意見交換会でございますが、新ビジョンをつくっていく上で、町の活力を向上させていくための視点として、女性が市内に定着し、活躍していくことが重要な視点であると認識しております。そのため、働く女性と市長との意見交換会の中で、女性の皆さんの人生のターニングポイントにおけるキャリアの選択などの考えをお聞きした上で、女性が働きたいときに働ける町、ずっと住み続けたい町とするためにはどのような町をつくっていきたいのか、また、ずっと住み続けたい町として、ワンランク上の暮らしやまちづくりにするために、何に重点的に取り組むべきなのかなどについて、今回御参加いただく皆さんから御意見をいただき、今後の北九州市の将来を考える上での参考とさせていただきたいと考えて、開かせていただいております。

今回の参加者につきましてですが、関係部署から、イクボス同盟や女性活躍・ワークライフバランス市表彰の直近受賞の企業様などの中から、業種や事業規模などのバランスを考慮いたしまして11社にお声かけいただき、そのうち、企業から推薦のございました12名の中から、製造業やサービス業、介護施設、保育など様々な業種、職種、また、生活背景も異なる方などを踏まえ、私ども企画課で人選させていただいたところでございます。以

上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ここに公募を入れなかった理由についても教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）企画担当課長。

○企画担当課長　今回、テーマについてお聞きしたい中で、様々な業種、職種、ライフステージを持つ方から幅広く御意見がいただけるように、いろいろな工夫はあると思いますが、今回はこういった方たちから御意見をいただけるということで、公募をいたしておりません。関心のある方、意見がある方に集まっていただく形もあるとは思うんですけれども、もっといろいろな形で御意見がいただければということで、企業からの推薦という形でさせていただいておりますので、今回は公募という形は取ってございません。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。公募についての考えはいろいろあるかと思いますが、公募の大きな効果の一つとしては、公募をすることで市民の関心が深まるということであります。応募した市民を選ぶか選ばないかは、それは市でまた選定をされると思いますけれども、市に関心を持ってもらうという意味で、公募はすべきだったのではと思っております。今後も幅広い市民参加が得られるような工夫をしていただきたいと思います。

産業のこととかいろいろありますが、今後、ＡＩによって５割かそれ以上の仕事がなくなり、その一方で、新たな産業も生まれ、雇用につながる可能性も秘めている現状の中で、様々な意見を聞いてビジョンをつくるということは非常にいいことだと思っております。とにかく、今、世の中が目まぐるしく変わっている時代ですから、そういったところを一つ残らず、逃さずにビジョンに反映していただきたいと思っております。

2040年を目指すこのビジョンでありますが、2040年までには、多分予想もできないようなことがたくさん起きてくるんではないかと思っております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）企画担当課長。

○企画担当課長　すみません、補足させてください。今回の意見交換の内容につきましては、今後、市政だよりに掲載する予定にしておりまして、女性の定着や活躍といった視点から、新ビジョンにさらに多くの皆様の関心や御意見をいただけるように広げてまいりたいと思っております。補足になります。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）１点だけ聞かせていただきたいんですが、市では様々な人を呼び込むということではあると思うんですが、特に女性も呼び込むということ、女性の定着にすごく力を入れたいという方向性なんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　新ビジョンの検討に当たりましては、人口はこれまでの議論の中でも若い世代の転出超過が大きいというところも、あと、女性を見ますと、福岡市への転出などが大きいというところもございますので、ビジョンで横串を刺して、今後、施策を検討していく上では、若い世代や女性の視点を取り入れていきながら、どういった施策をうっていけるかが重要な視点になってくると思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。これで最後にいたします。北橋市長が2017年とか2018年のときに、特に他都市から呼び込むのはアクティブシニアだということを主眼として、アクティブシニア、アクティブシニアって言っていたと思うんですけども、そのアクティブシニアへの視点というのは、今まだ残っているんですか。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　地方創生の中でまち・ひと・しごと創生総合戦略、今、第２期の取組をやっているんですけども、委員がおっしゃいましたように、第１期の取組の中ではアクティブシニアの取組を掲げておりました。今、動いております第２期の策定に当たりましては、先ほど申しましたように、若者、女性、言葉はあれですがターゲットというか、そういったところの取り込みに力を入れていくということで、第２期のまち・ひと・しごと創生総合戦略をやってはいるんですけども、とはいえ、アクティブシニアの方にも、北九州市の暮らしやすさだとか、そういったところを評価していただいて、ぜひ転入を御検討いただけるということであれば、我々としては定住・移住の取組の中でサポートしていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）時代の移り変わりとともにターゲットも変わったんだなと思いました。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）今日は、所管事務調査の中の人口増加対策に、新ビジョンの皆様方が来てくださったことに、まず感謝したいなと思っております。前半の行財政改革もそうなんですけども、北九州の最大の問題って、人口減少じゃないかなと考えています。例えば市債残高が多いとか、公共施設が多いとか、そういった問題も全て根っこは、私はこの生産年齢人口が減ってきていることにつながるんだろうと。そこで、我々、この総務財政委員会としても、人口増加対策をやらなければ駄目だという認識を持っているんですけども、その中で、新ビジョンが今日ここに来てくれたということは、そういう認識が少し共有できているんじゃないかなと感じております。

　その中で、実は私、20代のＯＬの方たちと話しました。北九州の人口を増やしたいと、

もっと元気な町にしたいとかという話をする中で、なぜ皆さんは福岡市に遊びに行くのかという話をしました。なぜしたかというと、定住人口を増やすって物すごく難しいことだと考えています。しかし、交流人口を増やすのは、これは何か努力次第で結構素早く結果が出るようなことにつながるんではないかなと。交流人口が増えた先に定住人口につながると、私自身はそう考えています。

じゃあ、その若いＯＬの方たちが何て言ったかっていうと、いや、北九州はおしゃれじゃないって言うんです。いやいや、結構いい建物とか、インフラもいいし、紫川も本当にきれいになったっていう話をしたら、何て言ったかっていうと、歩いている人たちがおしゃれじゃないと。これは衝撃的でした。考えたら、私も時々、ジャージを着て小倉へ行ったりするわけです。若い女性が言うには、自分たちはおしゃれをして、博多や天神へ買物に行くんだと。でも、北九州はそういうエリアがないって言うんです。そういう場所がないと。彼女たちはそう言うわけです。これが現実かどうかは知りません。

私はこの稼げる町という視点を考えたときに、若い人たちの交流人口が増えていって、そういうファッショナブルなエリアを小倉の中につくらなければならないんじゃないかなと思っています。５市が合併しましたからすごく難しいんでしょうけども、私の持論として、商業の中心は小倉に持ってくるべきだと考えております。少なくとも、昔、人口が多くて元気がよかった時代、私が小学生ぐらいのとき、小倉の玉屋に買物に行くっていったときに、よそ行きの服っていうんですか、そういう服を母親に着せられて、小倉に来た経験がございます。男性だったら格好いいとか、女性ならファッショナブルのような視点が、この稼げる町というか、新ビジョンの中に入らないかなと、これを読んで感じました。

これまでの主な意見とか、ずらずら読みました。先ほども話したように、隈研吾さんが来られて北九州のことを分析していましたね。テレビに出ていました。それも見ました。テレビを見る限りの話、この文章を読む限りの話ですけど、こんなことは、もう10数年前から言われ続けていて、悪いけど、ここに意見聴取して書いても、実は意味がないんじゃないかなっていうぐらい、自分は昔から問題点は変わっていないんじゃないかと思っている。だから、先ほど、女性を呼んで会議をするというのもいいんだけど、どうせなら本音で話してくれる人たちを呼んで、本当に活性化に向けたことをやったらどうかと思います。

例えばちゅうぎん通りに自分は結構行くんですけど、そこにアイスクリーム屋があるんですよね。知っていますか、皆さん。自分はそれができたばっかりのときに行って、そこでアイスクリームを食べたりしたんです。めちゃくちゃおいしかった。でも、そのときは全然人が来てなかった。しかし、どんどんどんどん人が来るようになるわけです。なぜか。それは楽しいし、おいしいしってことなんです。私、まちづくりの基本は、いろんな勉強会でも何でもいいんだけど、楽しくないと人は来ないと思っているんです。それは行政のやるべきことではなくて、実は民間の人たちがやるべきことなんです。行政が幾ら楽しい

ですよとか、幾ら何をしても、これはもう無理。だから、せっかく民間の特別職の方が採用されたんでしょ。そういうところで知恵を出してもらったらどうかなと思うんです。楽しさ。これが北九州に決定的に抜けている。ファッションとかね。ファッショナブル。格好いい。

例えば、現実の名前を出して申し訳ないけど、麻生太郎さんなんかはボルサリーノの帽子をかぶっているわけです。あれを見て、格好いいっちゅう人たちもおるわけなんです。だから、そういう格好で歩ける小倉のエリアを、私としてはつくってもらいたい。ここに来たら、女性でも男性でも格好いい、ファッショナブルな格好をして歩いている。店もそんな店がある。そのＯＬの方に聞いたら、この頃、夜カフェとか夜アイスとか、そういったものがはやっているわけです。自分の娘にも聞いたんですけど、北九州はカフェが少な過ぎると。楽しいカフェがないっていう。だから、せっかくまちづくりをやったり、意見聴取をするなら、もっと本音の話をしたほうがいいと思う。というような感想を持ちました。

ぜひ若い女性を、若い女性って差別じゃないんですけども、そういうターゲットの人たちを呼んで。著名人もいいですよ。しかし、現実にここで消費をして、ここで暮らして、ここの町を歩いてほしい層の人たちを呼んで。市長が聞くのは大変でしょうから、皆さんで聞いたらどうかと思う。それも、できたら例えばランチしながらとか、そんなちょっと軽いノリで本音を聞き出すようなことをやってもらいたいと思いますが、局長、どうですか。もっとファッショナブルな格好をして、そういう方々と議論するのは。

○委員長（佐藤栄作君）企画調整局長。

○企画調整局長　まさしくファッショナブルというのは、私も重要だと思っています。町を選んでいただくのに、データというか、傾向もあるとは思うんですけれど、より都会に出ていく。例えば北九州の人は福岡、それから関西、それから東京、女性であれば福岡が結構多いんです、データ的に。じゃ、北九州市にどういった地域から人が入ってきているかっていうと、九州圏内であれば、大分であるとか、宮崎であるとか、鹿児島であるとか、長崎であるとか。この傾向を見て、じゃあ、どういう仮説が立てられるかというと、都会への憧れ。今、委員からもお話がありましたように、まさしくおしゃれな町であるとか、カフェもそうでしょうし、格好よく自分の好きな衣装を着て歩くっていうのも、それも大きな要素になっているんじゃないかなと思います。選ばれる町になるためには、そういった要素というのは１つ大事になってくるんではないかなと思っています。

ただ、北九州市のこれまでの成り立ち、ものづくりの町で、工業都市で、仕事の中でまだ３交代であるとか、飲んで帰る角打ちとか、そういった文化にもつながっている。そういった北九州市のいいところというか、これまで培ってきた歴史の中における町をこれからどうやってつないでいくのかという点もそうでしょうし、今おっしゃっていただいたお

しゃれな町、選ばれるためには、憧れられるというか、ここに行ってみたいという、そういう要素も大切になってくるんではないかなと思っております。そういった両方の視点を踏まえながら、このビジョンの中にどうやって盛り込んでいくのか。これからもまだ意見交換もありますし、有識者会議も続きますので、皆さんの意見もお伺いしながら検討していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）局長、どうもありがとうございました。自分が実は失敗だなと感じたのが、2001年の博覧祭なんです。皆さんも覚えてらっしゃると思いますが、あのとき、環境教育を前面に出していったんですよね。そんなもの、楽しくないんです。楽しいところに人が来る、これが多分正しいんだと思います。そして、北九州が脈々と歴史をつないできて、文化を育んできた。その中に角打ちの文化もある。そのとおりなんです。それでいいんです。しかし、私が言っているファッショナブルな町にしようっていうのは、どこかの本当に小さなエリアだけでもいいんです。北九州全体をそうしようと考えていない。それじゃあ価値がない。だから、北九州市には角打ちもあれば、この通りに来たら本当に格好いい人たちが歩いていると。格好いい人が、麻生太郎さんの名前を何回も出して申し訳ないけど、ボルサリーノでもかぶって角打ちで飲んでいたら、めちゃくちゃマッチするかも分からない。そういう町をひょっとしたら市民の方は望んでいるかも分からない。この町に東京ガールズコレクションが誘致できました。平成中村座も、ここに来るようになりました。実はもうそろそろそういったものも、私は、北九州市民は求めているんじゃないんかなと思っています。東京ガールズコレクションで見たファッション、これを北九州で着れるような町にしていただきたい。そして、北九州が発信したファッションが東京ガールズコレクションで採用されるような町にしていきたい。これは民間にぜひ頑張ってもらいたい。それを行政がしっかり支えるような、そのような町を望んでおります。

○委員長（佐藤栄作君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）いろんな意見がここに出ておりますけども、僕も、その前のまち・ひと・しごと創生総合戦略のときからいろんな意見を聞いてきたんですけど、この中で、第２期のまち・ひと・しごと創生総合戦略以外の新たな意見、特筆的なものがあれば教えていただきたい。というのが、これまでの議論は、意見が重なっている分もかなりあると思うんです。今回新たに、これは新しい意見で面白いよというのがあれば、教えていただければなと思います。

それと、さっきの戸町委員と似ているんですけど、僕は、北九州の人口が減っているのは、福岡に人口流出しているのが最大の理由やないかなと思っているんですよね。特に若い女性とかから見れば福岡市がおしゃれでいいということなんですけど、男性の視点から見ても、僕は洋服を買うときとかはＬＥＯＮとかＭＥＮ’Ｓ　ＥＸとかを見るわけですけ

ど、そこの服はセレクトショップの服なんですよね。ところが、そういうセレクトショップの服は北九州には売っていないんです。セレクトショップといえば、ＢＥＡＭＳとかユナイテッドアローズとかＢＡＲＮＥＹＳ　ＮＥＷ　ＹＯＲＫとかがあるんですけど、例えばＢＥＡＭＳは、アミュプラザには全部一番いいところにある、小倉以外は。本当はＪＲ九州に交渉してＢＥＡＭＳに来てもらうぐらいのことを、小倉はアミュプラザ発祥の地ですから、僕はそれぐらい思っています。

それと、セントシティが商業施設で埋められないと。上はオフィスが入っている、これはこれでいいことなんですけども、おしゃれな町にしていくためには、あそこも商業施設で埋められるぐらいになっていかないといけないんじゃないかと思っています。これは意見にさせてください。

ひとつ尋ねたいのが、この意見の中に、東京から流出している30代以上の高所得者層を呼び込めるかどうかで都市間競争力が変わると書いてあるんです。たしか前回の委員会で、小倉には福岡から来ている人が多かったですよね。全体としては北九州から福岡に行っている人が多いと思うんですけども、小倉だけを見ると、福岡から小倉に来ている人が多いわけです。これは僕の勝手な想像ですが、支店長とか役職の人たちが、北九州に住まずに福岡から通っているんじゃないかと思う。まさに、30代以上の高所得者層の人が多いんじゃないか。例えば金融機関とか、福岡に本店のある大きな企業とか、こういったところの人を、福岡から通うんじゃなくて北九州に住んでもらえるようにできれば、ここの部分ができてくるんじゃないかと思うんですよね。そういうこともぜひ。これは意見にしておきます。ぜひお願いしたいと思います。最初のところだけお願いしたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君）企画課長。

○企画課長　まち・ひと・しごとの検討以外での特筆的な意見ということで、今回、意見を何ページかにわたってまとめておりますけども、検討会議での御意見とか、アドバイザーからの御意見とかで、今までになかった視点の御意見とかは出ております。具体的にはいろいろあるんですけど、私が印象に残っているのが、１つは、海外から優秀な人材を呼び込んでいくためには、インターナショナルスクールとか、ボーディングスクールとか、寮がついている学校とか、そういったところは日本全体で今どんどん誘致が始まっている中で、そういった視点は検討する要素として大事なんじゃないかといった御意見もございました。

あと、検討会議で御意見として出てきた中では、先ほど福岡市から人をどう呼び込むかということで委員からもお話がありましたけども、例えばベッドタウンということで、福岡と北九州は距離がありますけども、小倉など特定のエリアも検討していきながら、北九州は住みやすさとかは十分ありますので、そういったところを売りにしながら、ベッドタウンも検討する余地があるんじゃないかとか、そういった御意見もございました。今まで

にない御意見もいろいろ出てきておりますので、新ビジョンの検討の中で、参考になるところは参考にしていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）人口減少はどこの自治体でも同じ課題だと思っていますし、どうしたら人口が増えるかというのは、どの自治体もやっていると思いますので、新たな視点も含めて、しっかり成果が出るように頑張っていただきたいと思っています。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）皆さん、お諮りいたしたいんですけれども、時間が12時になりました。

質問される方は、ほかに何人おられますか。１人だけですか。

続行という形でいいですか。じゃあ、続行します。篠原委員。

○委員（篠原研治君）篠原です。よろしくお願いいたします。

先ほど戸町委員から、おしゃれな町を目指してほしいという話があったんですけども、私も同感です。というのも、私は福岡市に15年ぐらい住んで、議員になるために地元、北九州に帰ってきたんですが、15年ぐらい福岡市に住んでいると、福岡市の町並みだったり、勢いというのは肌でずっと感じていて、北九州に帰ってきたときに、その勢いというのは全くないなと感じるんです。私の知り合いの話ではあるんですけど、女性の方が言っているのは、福岡市に住んでいて北九州へ引っ越しして生活していて、久しぶりに福岡市に行ったら、女子力が落ちているのをかなり感じたと。これは、福岡市に昔住んでいたけど北九州に引っ越してきたという数人の女性の知り合いが、皆さんこぞって口にするんです。

博多や天神に行くときというのは適当な格好では行けなかったり、きれいな女性が多いというのが世間的にも言われていますし、美容室一つとっても、大名だったり天神は美容室の激戦区で、日本でもあそこでやっていくのは一番難しいっていうぐらい、美容室がすごく入れ替わるような場所なんです。それぐらい意識が高いところで、福岡市の東区だったり西区だったり、ちょっと離れたところに住んでいる人たちも、遊びに行く、飲みに行くときは、天神、博多に行く。そのときは、自分ができる一番のおしゃれを日頃からしていないといけないし、行くときは絶対に最高のおしゃれをしないといけないというプレッシャーの中で住んでいるという人が多いんだなと思う中で、北九州の小倉を歩いていると、お年寄りが多かったり、病院が近いのもありますけど、病院から出てくるような派手じゃない方が、きらきらした町にいる感じではなくて、生活の一部として小倉駅を利用しているというのは、博多、天神とは空気が違うと感じていて、小倉に行くのに最高のおしゃれをしていかなければならないというようなプレッシャーには、あまりなっていないんじゃないかなと感じています。先ほど戸町委員が言われていたように、おしゃれな町にするためにはどうしたらいいかというと、小倉を変えていくということに私はつながっていくと思います。

これはいろいろ議論があるかもしれないですけど、女性が増えると男性も増える、女性もきれいな人たちが増えていくと、男もそれに色気立って、格好よくおしゃれしていくみたいな相乗効果というのも一部あるんじゃないかなと思います。そして、飲食店にとっても一緒だと思っていて、これ、僕はあんまり言いたくはないことなんですけども、正直なことを言うと、実は北九州で有名店だったり行列ができるお店というのは、御飯のレベルだったり価格帯だったり、そのクオリティーは、福岡市に行くと適当に入ったお店と同じぐらいのレベルであるんです。飲食店のレベルも全く北九州市と福岡市は違うと感じています。北九州市で有名店となっているのは福岡市に幾らでもある。けど、福岡市で有名というところは、北九州市にはそのレベルのクオリティーではなかなかないと思います。だから、周りにライバルがいなくてちょっと目立っているから人が集まるっていう現象が北九州で起きていて、福岡市では、かなりハイクオリティーでやっていても、周りが同じぐらいハイクオリティーだから、なかなか目立てないと、私はそれを肌で感じているんです。じゃあ、どうしてそうなっているかというと、人口減少だったり、そういうものに伴って、競争力がなかなか生まれていないんじゃないかなと思います。

競争力というのはどうしたらいいのかと思ったとき、こういうビジョンとかを考えていくときに、新しいものをつくっていくとか、参入しやすくするっていうことはあると思うんですけど、スクラップしていく。ハイクオリティーじゃないお店を、僕は潰せばいいって簡単に言っているわけじゃなくて、潰れるべきもの、これはもういいんじゃないか、新しい人たちに譲ったほうがいいんじゃないかというところ、潰れずにずっと長年やっている、それは愛されているっていう考え方もあると思うんですけど、ビルドするだけじゃなくて、ちゃんとスクラップしてビルドしていくという考え方を、まちづくりに入れてほしいなと思います。町にとってスクラップというのがかなり重要だと思うので、視点とか考え方のときに、つくるだけではなくて、しっかりと厳しくスクラップするものはスクラップしていくという考え方をどこかに入れてもらえれば、いろんなものが活性化して競争が生まれてくるんじゃないかなと個人的には思っているので、検討していただければと思います。これは意見で終わります。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ここで、副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）今いろいろ委員の皆さんから御意見が出て、例えば、おしゃれだったり、カフェだったり、楽しいというような町なかをつくっていくべきだということで、本当にそのとおりだと思います。ただ、おしゃれをして町を歩きたいとか、おしゃれなカフェを商いしたいとか、そういったところというのは民間側のレベルの話になるんだろうと思うんです。じゃあ、そこで行政側は何ができるのかというところを考えると、町並み、

街路空間だったり、道路だったり、ストリートの使い方だったりと、空間をどう使いこなしていくか、描いていくか、デザインしていくかというところが、行政における役割ではないかなと思います。そうした、居心地のいい、歩きたくなるような空間を町の中につくることによって、そういった場所に、おしゃれをして歩いてみたいとか、おいしいコーヒーを飲みに出かけたいとか、そういうニーズが出てくると思いますし、それを受けて、自然発生的にそういったおしゃれなカフェが、その町なかに出てくるとか、そういった流れをつくっていくために、どういう都市の空間をつくっていくかということが大事だと思っているんですよね。それが、国土交通省が進めてきたウォーカブルなまちづくりで、僕も４、５年前に北橋市長にも提案しましたけれども、こういった都市の景観づくりとか使い方というところで行政が力を発揮しなきゃいけないと思うんです。ただ、そこに住んでいる地域住民だったり、商店の方々だったり、例えばウォーカブルなまちづくりを進めるに当たっては、道路の規制もいろいろと変えなきゃいけない。そうなると、駐車場を経営している人たちの合意だったり、いろんなところで合意形成を図っていかなきゃいけないんですけれども、それをするのが行政マンの、まちづくりの大きな役割だし、力の見せどころだと思うんです。

質問にはならないかもしれないんですけれども、ビジョンを今回新たに策定されるんであれば、そういった視点をしっかり反映してもらいたいと思いますし、公と民が連携しながら、よりよい町をつくっていくための役割を、職員の皆さんにしっかり汗をかいていただいて、大変な御苦労かと思いますけれども、それがまさに市の職員の力を発揮する場所だと思っていますので、ぜひ、そうした国の制度も活用しながら頑張っていただきたいと思います。意見で終わります。

○副委員長（三宅まゆみ君）ここで、委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。

ほかになければ、ここで執行部説明員は退出願います。

（執行部入退室）

それでは次に、行政視察について協議を行います。

委員の皆様から御提出いただいた視察先の案について取りまとめを行い、正副委員長案としてお手元に配付しております。５月の委員会で決定したとおり、本日は、この案の中から皆様の御意見を伺い、視察先の優先順位を決定いたします。今後の作業としましては、事務局において視察先との受入れ交渉を行い、最終的な視察先や日程等の案を提示させていただきたいと思っております。

それでは、お手元配付の案について、皆様の御意見等を伺いたいと思います。

御意見等はありませんか。戸町委員。

○委員（戸町武弘君）個人的には京都の行財政改革、これは見てみたいなと。特に北九州市は市債残高が多いという話もありますので、見たいなと思います。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）僕はぜひ、さいたま市にと思っているのが、北九州市の公共施設マネジメントを中心となってつくったのが東洋大学の根本先生なんですけど、その方が同じくやったのが、さいたま市なんです。さいたま市は、公共施設のマネジメントをする前から、政令市の中で最も公共施設が少なかったんです。少なかったのに公共施設のマネジメントをして、さらに減らしたと。私の記憶が間違いなければ、たしかそうだったと思う。そういう意味で、僕は北九州の参考にしていかなくちゃいけないと思っていますし、もっと極端に言ったら、根本教授に来てもらって、今の北九州の取組状況について発破でもかけてもらいたいなというのが正直なところですけども、それは私の意見であります。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。

ほかになければ、それでは、本日の意見を踏まえて、各委員が共通して関心の高い案を基に、正副委員長で協議をした上で優先順位を決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で所管事務の調査を終わります。

本日は以上で閉会します。

総務財政委員会　委員長　佐藤栄作　印

副委員長　三宅まゆみ　印